

復刻近代日本人名録

日本現今人名辞典

---

上

---

五十音順目次付き

総目次 (上)

凡例

(4)

五十音順目次

(5)

「日本現今人名辞典 第三版」 上

序

7

凡例

9

皇族

15

本文 (いゝな)

25

# 凡例

## 一 本書の内容

本書は『日本現今人名辞典 第三版』（日本現今人名辞典発行所刊行、明治三十三年初版、明治三十六年第三版発行）の復刻版である。

## 二 構成

(一) 菊判、全一冊（一五六七頁）の底本をB5判に拡大し、上・下二分冊に改めた。

(二) 本文は、底本の内容をそのまま収録した。掲載順は、皇族を先頭とし、次に「いろは」順に人名を収録している。

(三) 収録人数は、皇族十人を含め、一〇、九六一人である。

(四) 底本は「い」「ろ」「は」…と「一」から始まるページ付けがされている。本書ではこれに加え、上(いゝな)・下(らゝす)各冊に「1」からの通しページを表示した。

## 三 五十音順目次

(一) 上・下各冊の巻頭に、収録人名全体を五十音順に引ける五十音順目次を追加した。

(二) 人名の排列は、姓・名をそれぞれ一単位とし、現代かなづかいに拠る読みの五十音順とした。濁音・半濁音は清音扱いとし、ぢ↓し、づ↓すとみなした。また拗促音は直音扱いとした。また、別読みからの参照を適宜用いた。

(三) 人名の表記は、漢字は新字体、変体がなは通常のかなに統一した。また、底本の明らかな誤字は修正した。女性には人名の先頭に「\*」を付した。

(四) 本文での所在は、上・下の区別と通しページ、および底本の「い」「ろ」「は」…とこのページで示した。

(五) 人名五十音順の後に、底本掲載の広告の目次を付した。

## 五十音順目次

### 【あ】

相川規一	下480・あノ四十二	青木大三郎	下451・あノ十三	青山元	下448・あノ十	赤松長祥	下454・あノ十六
藍川清成	下481・あノ四十三	青木坦平	下451・あノ十三	青山朗	下448・あノ十	赤松則良	下455・あノ十七
相川豊男	下480・あノ四十二	青木恒三郎	下451・あノ十三	青山正夫	下449・あノ十一	赤松範一	下454・あノ十六
相川平三郎	下480・あノ四十二	青木信光	下451・あノ十三	青山松次郎	下449・あノ十一	赤松連城	下454・あノ十六
相沢清六	下481・あノ四十三	青木松	下451・あノ十三	青山松蔵	下449・あノ十一	秋虎太郎	下474・あノ三十六
相沢東十郎	下481・あノ四十三	青木松蔵	下452・あノ十四	赤井仙次郎	下454・あノ十六	秋岡義一	下474・あノ三十六
愛沢寧堅	下439・あノ一	青木芳松	下450・あノ十二	赤尾勘太	下453・あノ十五	秋月可山	下475・あノ三十七
合田梅太郎	下481・あノ四十三	青地雄太郎	下447・あノ九	赤尾藤助	下453・あノ十五	秋月新太郎	下475・あノ三十七
合田熊太郎	下481・あノ四十三	青柳栄司	下450・あノ十二	赤尾彦三郎	下453・あノ十五	秋月清十郎	下475・あノ三十七
合田重太郎	下481・あノ四十三	青柳桑三郎	下450・あノ十二	赤木喜三郎	下455・あノ十七	秋月種樹	下475・あノ三十七
相原平八	下480・あノ四十二	青柳俊作	下450・あノ十二	赤城友次郎	下455・あノ十七	秋田鉦三郎	下474・あノ三十六
饗庭喜右衛門	下440・あノ二	青柳四郎	下450・あノ十二	赤坂亀次郎	下455・あノ十七	秋田太郎兵衛	下474・あノ三十六
饗庭篁邨	下440・あノ二	青柳信五郎	下450・あノ十二	赤坂長八	下455・あノ十七	秋田留次郎	下474・あノ三十六
青木英二	下452・あノ十四	青柳新兵衛	下450・あノ十二	赤沢伊太郎	下455・あノ十七	秋田又太郎	下474・あノ三十六
青木乙松	下451・あノ十三	青柳清兵衛	下450・あノ十二	明石万助	下455・あノ十七	秋田松次郎	下474・あノ三十六
青木華谷	下451・あノ十三	青柳忠次	下449・あノ十一	赤塩勝吉	下455・あノ十七	秋野橋太郎	下475・あノ三十七
青木金七	下452・あノ十四	青山市郎平	下448・あノ十	県治郎衛	下454・あノ十六	秋野直吉	下475・あノ三十七
青木孝	下450・あノ十二	青山久四郎	下449・あノ十一	赤土亮	下454・あノ十六	秋野信右衛門	下475・あノ三十七
青木七郎	下452・あノ十四	青山源一	下449・あノ十一	赤羽四郎	下453・あノ十五	秋保親兼	下474・あノ三十六
青木周蔵	下452・あノ十四	青山幸宜	下448・あノ十	赤羽宥松	下453・あノ十五	秋元興朝	下478・あノ四十
青木庄太郎	下452・あノ十四	青山胤通	下448・あノ十	赤星弘重	下453・あノ十五	秋山幾太郎	下475・あノ三十七
		青山鼎之助	下449・あノ十一	赤松甚四郎	下455・あノ十七	秋山岩三郎	下475・あノ三十七

明治三十六年十二月第三版

日本現今人名辭典

日本現今人名辭典發行所藏版

## 日本現今人名辭典序

維新以來三十有餘年を経て、我邦の文運、愈益隆盛ならんとす、凡そ政治、法律、經濟より以て兵制、教育、實業等に至るまで、悉く舊狀を蟬脱し、著大の進歩をなさざるはなく、世界に於て未だ曾て類例を見ざるが如き社會的現象を呈露せり、加之日清戰爭の如き、又北清事件の如き、國民的活動は殊に世界各国の視線を惹くに至れるが故に、眞に旭日の昇るが如き氣勢ありといふも、恐くは過言にあらざるべし、然るに我邦に就いて驚くべき事、尙ほ未だ此に止まらず、今や妖雲黯澹として滿州の天を密封す、此時に當りて俄然崛起して之れを一掃し、世界の大勢に一轉機を與へんとする者、我國民にあらずして何ぞや、果して然らば我邦將來の文運、將に測り知るべからざるものあらんとす、此れに由りて之れを察するに、我邦明治の文運の如き、將來必ず世界の史上に於て一つの重要なる部分を占むべきものならん、然るに文運てふ社會的現象の背後には、唯個人あるのみ、換言すれば、幾多有力なる個人の活動によりて文運は催進さるゝものなり、是れ文運を理解せんが爲めには、少くも有力なる個人の事蹟を詳悉せざるべからざる所以なり、嚮に田中重策君多く、我邦現代知名の士の事蹟を輯録し、以

て一部の書となし、名づけて是れを「日本現今人名辞典」といふ、其書廣く世に行はれて、版本已に盡く、君乃ち之れに訂正増補を加へ、比較的完備せるものとなして、將に之れを世に公にせんことを蓋し、此書の如き、常に同時代の人の事蹟を知るに便なるのみならず、他日必ず明治の史料として缺くべからざるものとならん、是を以て余深く其舉を賛す、因りて又之れを思ふに、人物の月旦は蓋棺の後、始めて定まることあり、又蓋棺の後、雖も、尙ほ未だ容易に定まらざることあり、故に之れを生前に求むるも、或は正鵠を失ふることなきを保せず、然れども事蹟は即ち事實なり、悉く研究の價值あるものなり、是故に明治文運の發展を助成せる事蹟の如きは、殊に之れを詳悉して以て後世に傳ふべきなり、今此書の収載する所、殆んど我邦現代知名の士を網羅するが如しと雖も、尙ほ恐る、世間の廣き、人物の多き、幾多の脱漏あらんことを、乃ち他日又之れに訂正増補を加へ、更に之れより完備せるものとなすの要あること、復た論を俟たざるなり、偶感する所を述べて、以て之れが序となす、

明治三十六年十二月

井上哲次郎識

## 凡 例

一本書の目的元來社交上の機關として庶幾は亦信用機關たらしめんに在り故に其收むる所該博を主とし力めて記事の冗長を避け専ら社會の各方面に於ける現在知名の士を網羅集攬して洩れざらんことを期す然れども業頗る大事に屬し專記蒐集の困難は實に豫想の外に出でたり而して發行に豫定の期限あり之を以て第一版第二版の如き遺漏錯誤往々甚しとせず遺憾甚しかりき今や第三版成り大に増補訂正を加ふ蓋し稍其憾を慰むるに足るものあらん而して吾人尙期する所あり今後益々版を重ね遂に以て其完美をなさんとす

一寄贈材料の延着又は調査及び印刷の緩急により未文順序中に挿入する能はざるもの亦往々免れず此等は其部門の末別に追補門を設けて之を載せ次版を待て訂正せんとす

一索引の法は依然いろは順を用ゐる同姓同姓の下に類聚せしめて假字並列の順に従ふ例へば「岡宗一郎」は其次なるが如し

一本書は殊に現在の地位職業狀況等を記述するを要す然れども人事日刻活動して靜止せず興廢進退殆ど虚日なし之を以て本書の印刷中其地位職業狀況に移動あり又往々鬼籍に入るものあるは到底免れざる所なり

一皇族は本文順序中に加へ奉らず巻頭別に謹て一欄を設く敬意を失せんことを恐るればなり其順序亦いろは順に依らず皇族御順席の例に従ふ索引の不便なければなり

一本書編纂の效を峻ふる固より大方諸彦贊助の力甚しとせず而して殊に第一版以來贅裏篤志家として斡旋の勞を賜ひ又は大に便宜を與へられたる

(いろは順)

# 本日現今人名辭典

5

## ◎いろべ、ぎたいふ 色部義太夫

君は長野縣の大地主にして多額納稅者なり嘉永五年九月生る家世々農を業とす君明治十七年以後縣會議員に當撰するこゝ二回二十年七月貴族院議員に互撰せらる翌年十月色部銀行を設立し其頭取となる(地一、九〇〇圓餘、信濃國埴科郡杭瀬下町)

## ◎いろかは、さぶらうべゑ

色川三郎兵衛

君は茨城縣の實業家なり天保十三年十一月下總武謝郡屋形村に生る海保長左衛門の四男慶應三年色川氏を嗣ぐ家世々醬油醸造を業とす明治五年新治縣御用方取掛を奉じ尋で新治裁判所爲換方を勤む翌年土浦町副戸長兼學區取締を命ぜられ九年以來第一大學區學事會議傍聽委員、衛生取締検査委員、備荒畜養取調役、縣會議員、縣勸業諮問會員等に擧げられ郷黨の推尊する所となる二十一年自治制施行に際し土浦町長に推されしも公私の事務多忙の故を以て之を辭し二十三年縣會議員を罷む

39 34

此十一月縣下第五區より撰ばれて衆議院議員となり第二議會解散後再撰せらる二十七年第六議會解散後候補を辭し爾來専ら身を實業に委せり君實業上の經歷頗る多く曩に醬油會社を東京に創立し醸造の改良販路の擴張を圖るが如き又東京乗合馬車會社設立の發起人として奔走したるが如き其成績著し今現に土浦運送株式會社社長、土浦米穀取引所理事長及び土浦五十銀行監査役たり(直一、二三五圓餘、常陸國新治郡土浦町字本町)

## ◎いははし、まんすけ 岩橋 萬助

君は和歌山の藍尚岩橋屋なり又久元年生る曾て第七區々會議員及區會議長、和歌山商業會議所會員及同常議員等の名譽職に擧げられ明治二十八年株式會社和歌山銀行の創業に與り爾來其事務取締役となり又和歌山商業銀行監査役に推さる三十三年綿ネル株式會社の創業以來取締役の席を占め兼て株式會社和歌山貯蓄銀行取締役となり次て其頭に擧げられ爾來以て現今に及ぶ今尙ほ其業務に執掌しつゝ藍販賣に従事す(納九五〇圓餘、和歌山縣和歌山市久保町壹ノ七、電略イママン)

## ◎いはほり、かさぶらう 岩堀嘉二郎

君は福井縣の大地主にして吳服本物及び古着商

361

を業とし方今第五十七銀行取締役たり(地三五〇圓餘、營三〇圓餘、越前國南條郡武生町字蓬萊町)

## ◎いはを、さぶらう 岩男 三郎

君は地方長官なり舊熊本藩士嘉永四年五月九日生る明治四年始て文部省に出仕す翌年自費を以て歐米に留學し在學四年にして歸朝す五年司法省に出仕し東京上等裁判所詰となる後判事となり又參事院書記生を兼て太政官に出仕し制度取調局御用掛兼動たり後内務省に轉じ恩賞課長となり又總務局に勤務す更に三重縣書記官に任じ正七位に叙す廿三年憲法發布紀念章を受領し從六位に叙す爾來靜岡愛知等の書記官を経て秋田縣知事となり正五位勳五等瑞寶章を賜はる後勳四等に陞り福井縣知事たり三十四年休職となり方今從四位宮崎縣知事たり(宮崎縣宮崎郡宮崎町大字上別府)

## ◎いはがは、ともたらう 岩川友太郎

君は生物學家なり青森縣の人岩川豐橋氏長男安政元年十二月生る二村居士、杉猿居士、過去山人等の號あり初め奮弘前藩東奥義塾に漢學及英學を修め明治七年出京して外國語學校に入り八年開成學校に移り動物學を専攻し十四年東京大學を卒業

し理學士の學位を得次て東京師範學校教諭に任ず  
十九年同校の高等師範學校と改稱せらるゝや又其  
教授(正七位)となる廿二年帝國博物館天產部臨  
時取調委員を囑託せられ翌年女子高等師範學校教  
授に兼任  
し二十六  
年大臣官  
房圖書課  
兼勤とし  
て教科書  
の檢定に  
従事す廿  
九年勳六等瑞寶章を賜ひ三十一年女子高等師範學  
校教授專任となる三十三年東京帝國博物館學藝委  
員を命ぜられ從五位に陞級し本年勳五等瑞寶章を  
授けらる其間各種の委員たり今尙前記教授の職に  
在り其著動物通解、博物標本製作法、生物學語彙、  
其他生物及動物の諸教科書等世に行はる(所三〇  
圓餘、東京市神田區猿樂町三ノ二)



●いはがめ、へいざう 岩龜 平藏  
君は岩手縣の大地主にして多額納稅者なり金銀  
貸付業及び煙草商を業とす(地四七二圓餘、營三  
九圓餘、所六三圓餘、陸中國神貫郡大迫町)

●いはかみ、かうたらう 岩上幸太郎  
君は横濱の貿易商なり栃木縣安蘇郡赤見村に生  
る弱冠の頃些少の資を懐にし横濱に至り織物取引  
を業とし若上商會を開く爾來販路益々開け現時雜  
貨輸出商を營み支店を米國布哇島ボノル、府ホテ  
ル町に設け其發達を計れり(横濱市南仲通四ノ七  
八、電特八五九)

●いはた、はるじらう 岩田春二郎  
君は大分縣の實業家なり酢醬油製造を業とす又  
自ら岩田銀行を設立して其行主たり外に中津運輸  
株式會社取締役、中津魚市株式會社社長、蓬萊親  
株式會社取締役等の任にあり(所五〇圓餘、營三  
八圓餘、豐前國下毛郡中津町字豊後町)

●いはた、せいざく 岩田 清作  
君は新潟の藥劑師(夙夜堂)なり岩田庸作四男文  
久二年二月生る夙に普通學を收め後漢籍英語を學  
ぶ明治十八年新潟醫學附屬藥學校を卒業し試験  
に應じて藥劑師となり公立中浦原郡病院藥局長を  
拜命す後藥劑を新潟に開き傍ら司藥場を設け藥品  
の檢査に従事す廿三年東京衛生試驗所に實地研究  
廿四年藥品監視員を命ぜられ翌年新潟縣藥劑師會  
幹事たり爾來日本藥劑師會本縣委員、日本藥學會  
より新潟縣通信委員、新潟縣臨時藥品監視委員、  
第三回藥劑師會日本藥學會委員、新潟縣藥學同  
窓會幹事、日本藥劑師會新潟縣部長等に擧げられ  
次て藥品取扱規則改正請願の爲本縣藥劑師會より  
上京委員に推され廿二年赤十字社長より準備調劑  
員を囑託せられ廿三年本縣主催聯合共進會新潟縣  
衛生會協賛部委員を囑託せらる其他鹿地方衛生會

臨時委員たり廿四年市會議員に當選す現に其職に  
在り(越後國新潟市本町通十番町、電略イヌ)

●いはた、とももん 岩田友右衛門  
君は東京の綿絲門屋なり(營二九四圓餘、所一  
五圓餘、日本橋區堀江町三ノ一、電特浪四二五)

●いはた、とらしち 岩田 寅七  
君は長崎の米穀株式石油取引所仲買人(は、岩  
田商店)なり明治三十二年今の業を開始し爾來之  
に従事す廿三年全業組合組長に  
推選せられ今猶其任に在り三十  
五年取引所より平素業に勉勵し  
務取引正確にして況く信用を博  
したるの結果定期米賣買石數最  
多額に達したる廉を以て一等賞三ツ組銀盃を贈與  
せられ三十六年又一等賞品銀製鏡子を贈與し以て  
君の名譽を表彰せらる(長崎縣長崎市八坂町二二)

●いはた、よしあき 岩田 善明  
君は海軍造船家なり舊岡山藩士木全正修氏次男  
安政六年九月生る初め普通學を修め明治十年工部  
大學校に入り造船學を修め十六年卒業工學士の稱  
號を受領し次て横須賀造船所に奉職す二十二年吳  
鎮守府開始に際し吳造船部に轉職し創業の事務に  
當る二十七年軍艦富士八島の英國に於て製造せら  
るゝに際し造船監督官として英國出張を命ぜらる  
三十年歸朝後横須賀海軍造船廠に職を奉し三十三年  
吳海軍造船廠造船課長に補し三十五年吳海軍造  
船廠長に補せらる現に從五位勳五等海軍造船大監  
にして其職に在り(吳市和庄町二〇八四四)

●いはた、たけのり 岩田 武儀  
君は司法官なり舊彦根藩士弘化四年八月生る初  
名石三後改む明治元年藩の外交掛と爲り尋て權少  
屬に任じ履後彦根縣少屬となる同四年司法省に  
出任し刑法兼聽訟掛となり爾後同課長を歴て名東  
香川縣等に轉じ九年十月司法省十等出仕に補せら  
る此年判事補となり名古屋裁判所安濃津支廳長代  
理となり從七位に叙す十四年檢事に任じ爾來千葉  
東京始審裁判所等に勤務し又東京控訴裁判所に轉  
じ十九年累進して從六位勳六等に陞叙し單光旭日  
章を賜はる二十三年名古屋地方裁判所檢事正に補  
し正六位に叙し廿五年東京控訴院檢事に補す翌年  
宮城控訴院檢事に補し次で大審院檢事に轉す現今  
正五位勳四等大審院判事たり(東京市芝區公園第  
五號一三)

●いはたれ、くはひこ 岩垂 邦彦  
君は電氣工藝家なり舊小倉藩士安政四年八月生  
る明治十五年工部大學電氣工學科を卒業して工學  
士となり後大阪に在りて電氣諸機械製造販賣業を  
起し日本電氣合資會社を創立して其業務擔當社員  
兼技師長たりき方今日本電氣株式會社社長たり  
(東京市芝區芝公園二十號一)

●いはた、ちうざぶらう 岩田惣二郎  
君は大阪の實業家なり總絲卸商を業とす方今株  
式會社尾州銀行頭取にして同大阪絲棉木棉取引所  
及び攝津紡績株式會社監査役なり(所二〇圓餘、  
營三一四圓餘、大阪市東區北久太郎町二、電東五  
三八)

●いはたう、やすへい 岩堂 保平  
君は岡山の実業家なり方今株式會社岡山銀行監  
査役、西大寺紡績會社事務取締役及び株式會社岡  
山米蘭株式取引所理事長等の任に在り(備前國岡  
山市門田屋敷)

●いはた、やすを 岩田 康郎  
君は兵庫縣の實業家なり明治三十二年十一月縣  
會議員に當選す又現に淡路製陶株式會社及び淡  
路製竹株式會社の監査役なり(淡路國津名郡洲本  
町)

●いはた、ぶやた 岩田武彌太  
君は造船技術家なり奥州舊小南郡藩士中里  
義親氏男(新羅三郎義光の後裔にして世々藩の家  
老職たり)文久二年六月廿三日八月城下に生る夙  
に開文會に英學を修め明治十年出て横濱修文館に  
學ぶ翌年横須賀造船部技術學校に入り卒業後岩田  
平作氏の養嗣子となり尋て英國に航し「グラスゴ  
ー」大學に入り在學七年にして歸朝し直に海軍小  
技士に任せられ吳造船部に入り又横須賀造船部に  
轉す二十七八年の役出師準備に係る艦船及び水雷  
艇小艇の工事に執筆し又吉野以下諸艦船の修理に  
従事し遂に旅順口海軍根據地工作部主幹に補せら  
る後後功五級金鷄勳章及び勳六等瑞寶章を授けら  
る後海軍造兵大技士となり正七位に進む現に海軍  
機關學校教官たり

●いはたて、やすごらう 岩楯安五郎  
君は横濱の綿絲商なり明治三十年横濱蒸晒株式

會社の創立に力を盡し現に其取締役たり(營二四  
圓餘、所四圓餘、神奈川縣横濱市太田町一)

●いはた、さくべゑ 岩田作兵衛  
君は東京の實業家なり元岡山縣の人方今甲武鐵  
道株式會社及び川越鐵道株式會社の取締役に  
青梅鐵道株式會社南北鐵道株式會社等の監査役及  
び東京商業會議所會員なり(所九六六圓餘、東京  
市日本橋區本町一ノ一〇、電本一、四二〇)

●いはた、きよあき 岩田 清秋  
君は長崎有数の實業家なり石炭賣買及び嶺山業  
を營む方今長崎商業會議所會員にして名譽職市參  
事會員たり(肥前國長崎市榎津町)

●いはた、きんざう 岩田 金藏  
君は北海道の素封家なり家世々金藏と稱す其祖  
金藏明和安永の際南部領大畑に寄寓し後松前に  
航し泊川町に住し酒造を以て業と爲す二代金藏文  
化年中松前藩主より積丹地方一圓蝦夷人の撫育を  
命ぜらる是より世々藩費軍資を獻金し地方の爲め  
に捐資するもの實に尠ならず而して土人撫育の  
功亦頗る多し六代金藏明治元年奥羽戦争の時軍資  
金三千兩を獻納し小松前町砲臺新築用地を獻す二  
年開拓使創置の際擧げられて開拓使權少典に任じ  
四年多年國家に盡力の廉を以て廻船開屋申付らる  
六年廻船宿預取となる七年氏自ら出金して私立小  
學を設け幼童共研社と稱し書籍器械を整頓し八年  
公立病院の設立に當り金五百圓を寄附し九年松城  
小學校設立費金千圓を出捐す君は實に其子にして  
岩田家七代の繼承人なり君業務の故を以て民籍に

---

復刻 近代日本人名録  
日本現今人名辞典—五十音順目次付き 上

---

2022年4月25日 第1刷発行

---

発行者／山下浩  
編集・発行／日外アソシエーツ株式会社  
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス  
電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845  
URL <https://www.nichigai.co.jp/>

---

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社  
印刷・製本／株式会社 デジタル パブリッシング サービス

---

不許複製・禁無断転載  
<落丁・乱丁本はお取り替えいたします>

ISBN978-4-8169-2918-2 Printed in Japan, 2022

本書はデジタルデータをご利用いただくことができます。詳細はお問い合わせください。